

11月のてがたんにご参加いただいた皆様、ありがとうございました。観察記録のレポートを作成いたしましたので、ご覧ください。

次回12月のてがたんは12月11日(土)で、テーマは「白黒つけよう！2種のセキレイ」です。ぜひご参加ください。12月1日の8時30分から電話での申し込みを開始いたします。市民スタッフのみなさま、次回の下見は12月5日(日)です。

11月の観察コースと内容

- コース：鳥の博物館→手賀沼親水広場
- 観察日時と天気：2021年11月13日(土) 10:00～11:00 晴れ
- 参加人数：大人9名
- 市民スタッフ：5名（伊東茂子、石原直子、小泉伸夫、伴野茂樹、湯瀬一栄）
- 鳥博職員：1名（村松和行）

観察した生き物の記録

「*」は、下見だけで見られたもの。

【鳥類】ハト科：キジバト/ウ科：カワウ/サギ科：コサギ/クイナ科：オオバン/タカ科：トビ/カワセミ科：カワセミ（声）/モズ科：モズ/カラス科：ハシブトガラス、ハシボソガラス/シジュウカラ科：シジュウカラ/ヒヨドリ科：ヒヨドリ/エナガ科：エナガ（声）/メジロ科：メジロ/ムクドリ科：ムクドリ/ヒタキ科：ジョウビタキ/スズメ科：スズメ/セキレイ科：ハクセキレイ/アトリ科：カワラヒワ/家禽や外来種：ドバト（ハト科）

【昆虫】トンボ目：アキアカネ/カメムシ目：キマダラカメムシ/チョウ目：キタテハ、ヤマトシジミ、モンシロチョウ、キタキチョウ、ナシケンモン*（幼虫）/カマキリ目：オオカマキリ/ハチ目：オオスズメバチ*/コウチュウ目：キイロテントウ*/バッタ目：マダラズズ（声）、シバズズ（声）、カネタタキ（声）/ハエ目：オオクロバエ*

【クモ】アシナガグモの仲間（種不明）、シロカネイソウロウグモ、ナガコガネグモ、ジョロウグモ、アリグモ

【植物(花)】シソ科：ホトケノザ/カタバミ科：カタバミ/アカネ科：ヘクソカズラ/キク科：オオジシバリ、セイヨウタンポポ、ノゲシ/ツバキ科：サザンカ

【植物(実)】アサ科：ムクノキ、エノキ/クスノキ科：クスノキ/ブナ科：シラカシ、ウバメガシ、マテバシイ/カバノキ科：ハンノキ/カツラ科：カツラ/ミソハギ科：サルスベリ/モチノキ科：イヌツゲ/ウルシ科：ハゼノキ/モクセイ科：トウネズミモチ/メギ科：ナンテン/アオキ科：アオキ/アカネ科：ヘクソカズラ/オオバコ科：オオバコ/バラ科：トキワサンザシ/クマツヅラ科：ランタナ

11月の観察アルバム



今回のてがたんのテーマは「樹木と鳥の持ちつもたれつ」でした。広場の中には鳥が果実を食べた後に、糞と一緒に種が散布されて発芽したと思われる木がたくさんありました。ルートの途中では、今回のテーマにぴったりのムクノキにとまるムクドリを観察できました。



伊東茂子さん



石原直子さん

案内人



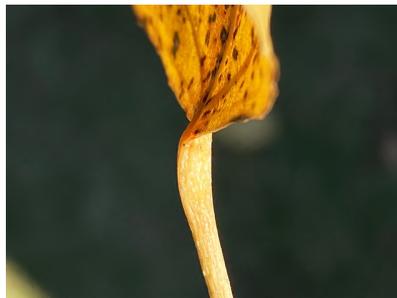
① マテバシイの葉の上のアリグモの巣



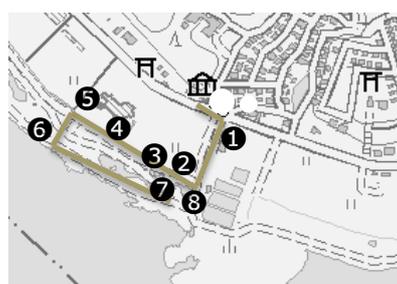
② 鳥が大好きなムクノキの甘い果実



③ ところどころ紅葉していたクスノキ



④ ポプラの葉柄は縦に扁平な形



歩いたルートと観察した生き物



⑤ いびつな形のウバメガシの果実



⑥ 縁起がいいとされ、正月飾りにも利用されるナンテンの果実



⑦ 水分が少なく脂肪分が多いハゼノキの果実



⑧ 三層構造の巣を張るジョロウグモ

今月の鳥 ヒヨドリ (スズメ目ヒヨドリ科)

ヒーヨ、ヒーヨと大きな声で賑やかに鳴くヒヨドリは、全国の里山や公園などでよく見られますが、世界的に見ると日本とその周辺一部でしか見られないので、外国からの旅行者には珍しがられる鳥です。

春から夏にかけては主に昆虫などを食べ、冬になると主に果実や種子を食べます。メジロやムクドリなどのように木の枝にしっかりとつかまって餌を食べるほか、飛びながら餌を捕まえるフライングキャッチをする姿もよく見かけます。また花の蜜も好み、花の中に顔を入れて筆先のような舌で蜜を舐めとります。ヒヨドリを見かけた時は餌の食べ方をじっくり観察してみるとおもしろいでしょう。



センダンの実を食べるヒヨドリ